

継ぐ受け神楽、願い平和

大槌みらい新聞

2013(平成25)年
2月15日(金)

第6号

発行
NewsLab おおつち
電話 0193(55)5908
FAX 020(4662)9611
定価: 50円

2・3面

大槌まちれぽ
イベント情報

4面

検証 復興への道6
町職員 不足深刻、
長時間残業も

震災後も活動、仲間増やす

天岩戸に閉じこもってしまった天照大神を、再び外に誘い出し、世の中が光と平和を取り戻す一助となった、長鳴鳥(ながなきどり)。大槌町の金沢地区に伝わる金澤神楽の「御神楽(鶏子舞)」は、この長鳴鳥の様子を描いている。皆が再び明るく穏やかな生活を取り戻せるように。金澤神楽愛好会の太田未彩希さん(25)は、その思いを込めて、継承に取り組んでいる。

金澤神楽愛好会 太田未彩希さん(25)



11日の郷土芸能祭で神楽を舞う太田さん

金澤神楽は、戦後間もない頃までは巡業も、12の演目があったが、大槌祭りの参加が主になり鶏子舞が中心となった。太田さんは、愛好会で神楽を受け継いできた佐々木家の出身。2、3歳の頃から舞台に立つてきた。金沢を離れた後も練習があれば通い、祭りの時は欠かさず舞っていた。ただ、大槌祭りは2日間続く体力的にハードな行事。高齢化で参加者は減り続け、多い頃は20人近くいた踊り手は、東日本大震災前には、太田さんを含め4人になっていた。

避難所で慰問活動

地震が町を襲った時、太田さんは2週間前に生まれたばかりの次男らと沢山の実家において、すぐやや内陸の自宅へ避難したため、直接津波を見ることはなかった。しかし電気や水道は止まり、実家にあつたおむつなどはみな流されてしまった。ミルクを作るための湯もわかせない。両親と洋服を重ね着して眠り、目が覚めるたびに「これは夢じゃないのかな」と思う日が続いた。

震災後に踊ったのは、わずか2カ月後の5月。避難所となっていた旧金沢小学校での慰問で披露することになった。なぜ踊る気になれたのか、分からない。「ただ自分も何かしたいという気持ちも確かにあった。それで踊ることができるうって考えたなら、踊ることしかなかった」

集会所で毎週練習

そして、その年の大槌祭り。教室の参加者が踊り手に加わった。「前はただ好きで踊っていたけど、町が元気になったことを伝えたり、見た人に希望の光があるようにと思いを込めるようになった」。冬からは集会所で毎週練習会を開いている。



TEL: 0193-55-5908

FAX: 020-4662-9611

URL: <http://otsuchinews.net/>

Facebook: <http://www.facebook.com/NewsLabOtsuchi>

「きらり駅」閉鎖、商店出店へ

2012年12月28日、大槌北小福幸きらり商店街の休憩処「きらり駅」が閉鎖されました。2011年12月17日にコミュニティスペースとしてオープンし、休憩処として数多くのボランティアさん、地元の方々を受入れ、お茶やコーヒー等でもてなして来ましたが、2012年の4月27日から9月30日までは、簡易宿泊所として「きらりベイス」を開設し、日本全国からボランティアを受け入れました。

きらり駅は、2013年も継続して営業される予定です。行政(大槌役場)として、地元の商店街への多数の出店申込みに対して、きらり駅スペースを提供する事に決定したそうです。(レポーター・真瀬進)



大槌まちれぽ

町民レポーターが町の出来事をお伝えするコーナーです!

記事はどなたにも書いていただけます。「こんなことお知らせしたい」「こんな写真を撮りたい」等ありましたらお気軽にご連絡ください!
毎月第2土曜日にどんな紙面にするかを考える企画会議、第3土曜日に紙面に載せる記事を選ぶ編集会議を行っています。興味のある方はご参加下さい。

町民レポーターから

みずき団子が楽しみ!小正月



一年中で最も寒いこの時期、ストーブから離れることができない私に楽しみにしていることがあります。それは、1月15日の小正月!!小正月の楽しみはみずき団子を食べること。
大槌町エールサポートセンターでもこの日9名のお母さんたちが集まりみずき団子と甘酒を作りました。出来上がったお団子を水木に挿すと水木に花が咲いたように華やかになり、美味しく出来たお団子と寒い時期に欠かせない甘酒とで参加者のお母さん達の会話が弾んでいました。(中財千晶)



浪板海岸で、初めての光景



6日の夜明け前、浪板海岸で日の出を待っていたところ、日の出の直前、水平線に真っ赤な帯のような光が広がりました。震災前は何十年と朝日を一眼レフカメラと望遠レンズで撮り続けてきましたが、このような光景は初めて見ました。
何百枚と撮りためたアルバム5冊とカメラは津波で流されてしまい、悔しくて撮るのをやめていましたが、デジカメでまた撮ってみようと、今年の元日と6日に浪板海岸に行きました。(小林信雄)

中学生60人が受験に向けて決起集会!

1月16日、コラボ・スクール大槌臨学舎で高校受験に向け、生徒一人ひとりが人生のなかで受験のもつ意味について考えるための決起集会があり、中学3年生約60人が集まりました。「受験はゴールではない。ゴールの先にまた高校生活が始まる。」
先生と生徒がグループに分かれ10年後どんな大人になりたいか、夢、目標、受験までの残りの時

間をどう使うかなど話し合いました。その後、「自信をつけるために自分に妥協しない!」生活態度を見直し1日3時間以上の勉強をして、50日後の受験に向けたたくさん勉強する、など「約束カード」に決意表明をし、受験に向け気持ちを新たにしました。最後に全員で円陣を組み、気合いを入れました。目標、夢に向かって頑張れ、受験生!! (膽石望鈴)



仙台から迷子のはとが!

カラスに追われた一羽のはとが小槌わらびっこ商店街の阿部床屋さんの店の中に逃げ込んできました。
足輪についていた名前の方に電話をすると、仙台の方でした。仙台からはるばる大槌のわらびっこ商店街に飛んで来たようです。
松井さんに送り届けるまで店主みんなでお世話しました。(ヘアサロン佐藤)

みさきレポート

岐阜県土岐市立泉中学校



岐阜県土岐市立泉中学校の体育館で1月27日、東海地震への心構えを身に付けようと、PTA主催の震災ボランティア講演会「震災に対する備えを」が開かれました。ミニコンサートも開かれ、白澤みさきさんがゲスト出演。吹奏楽部と共演し「故郷(ふるさと)~Blue Sky Homeland~」を歌いました。みさきさんは「初めての岐阜でのライブです。泉中学の皆さんとのコラボレーションもとても貴重な経験となりました」と話していました。(協力・クレドプロモーション)

お店レポート

「トツゼン コッペパン ファクトリー 大槌」



パンで町おこしを!

手軽で作りやすい、焼きたてのコッペパンにいろいろなものを含み販売しています。ラムレーズンやいちごマーガリンという菓子コッペパンに、はみだし焼きそばやぶちあつペーコンという惣菜コッペパンなどメニューは約30種類!各種トッピングのほかコーヒーもあります。誰もがそこに居たくなる暖かい場所を目指している、そんなお店です。外装は桃色の牛柄模様で「モーモーハウス」と名付けられています。(加賀研司)

営業時間 9時~17時(月曜定休)
電話 0193-55-4392
場所 大槌町本町7-15
JR大槌駅入口交差点前

イベントカレンダー

健康

ヨガ&まったりお茶会

日時:2月21日 11時~13時
場所:大念寺
内容:託児つき、小さいお子さん連れのママ、大歓迎です!ヨガをした後はパンケーキづくりとお茶会でまったりしましょう!アレルギーのあるお子様が参加される場合は事前にお知らせください
お問い合わせ:AMDA大槌・健康サポートセンター(42-8989)

ヨガ教室

日時:2月25日 11時
場所:町方ドーム(大念寺集合)
内容:ゆるーり、のんびり。1教室1時間、託児あります。
お問い合わせ:AMDA大槌・健康サポートセンター(42-8989)

ボクササイズ

日時:2月19, 26日 14時~15時半
場所:城山体育館アリーナ
内容:一緒に良い汗をかきましょう!
お問い合わせ:AMDA大槌・健康サポートセンター(42-8989)

手芸教室

日時:2月28日 13時~
場所:AMDA大槌健康サポートセンター
内容:賑やかに開催中!
お問い合わせ:AMDA大槌・健康サポートセンター(42-8989)

ストレッチ&エクササイズ

日時:2月27日 10時~
場所:AMDA大槌健康サポートセンター
お問い合わせ:AMDA大槌・健康サポートセンター(42-8989)

元気いきいき運動教室

日時:2月28日 13時半~15時
場所:中央公民館
お問い合わせ:大槌町役場情報化推進室 42-2111

さわやかストレッチ教室

日時:3月7日 13時半~14時半
場所:大ケ口多目的集会所、桜木町保健福祉会館
お問い合わせ:大槌町役場情報化推進室 42-2111

町方ドームの教室

場所:町方ドーム
お問い合わせ:おらが大槌夢広場(55-5120 田中正道)

パソコン教室

日時:2月20日 14時~16時
内容:ワード、エクセル教室
日時:2月28日 14時~16時
内容:インターネット教室

そば打ち体験教室

日時:2月25日 11時~14時
内容:担当いちおし!打ち立てのそばをみんなで食べませんか。要予約

デジカメ教室

日時:2月19日 14時~16時
内容:基本的なカメラの使い方教室です。撮った写真をポストカードにしてプレゼントします。カメラの貸し出しあり。

ネイルアート

日時:2月26日 14時~17時
内容:ネイルアートといやしのハンドマッサージです

和紙コースターづくり教室

日時:2月18日 13時~17時
内容:地元のお母さん主催の教室。材料費800円、要予約。

教室

写経の会

日時:2月27日 13時半~15時半
場所:エールサポートセンター(三枚堂)
内容:初めての方も参加できるように筆や用紙は用意してありますのでお気軽にご参加ください!
お問い合わせ:まちづくり・ぐる

つとおおつち(55-5221)

写真教室

日時:毎月第4土曜日
場所:どんりゅう庵(役場前カレール屋)
内容:カメラ好きの人で集まって、写真の勉強をします。カメラを買ったばかりの初心者から上級者までいます
お問い合わせ:大槌みらい新聞(55-5908)

こども

子ども体育教室

日時:2月26日 15時~18時
場所:マストホール
お問い合わせ:シーサイドタウンマスト 42-8100

Wiiゲーム大会

日時:2月23日 13時~15時
場所:大槌町武道場(中央公民館隣)
内容:Wiiを利用したゲーム大会。中学生以下の部はマリオカー

ト、一般の部はボウリングなど光ブロードバンド回線の体験会)参加賞、順位賞あります!
主催:NTT東日本

その他

福祉・介護就職希望の相談会

日時:2月22日 13時~15時
場所:マストホール
お問い合わせ:シーサイドタウンマスト 42-8100

東日本大震災三回忌法要

日時:3月18日 13時~
場所:大念寺
内容:震災で命を落とされた方々を追悼し、被災地の一日も早い復興を祈って、法要を営むことになりました。宗教、宗派を超えた法要ですので、どなた様も遠慮なくご参加ください。当日は巡回バスもごさいます。
お問い合わせ:AMDA大槌・健康サポートセンター(42-8989)

イベント参加者に豪華プレゼントあり!!



みんなでつくる写真展

「大槌宝箱」開催!!

3月1日(金)

5日(火)

シーサイドタウンマスト1階センターコート
9時~19時
※最終日のみ17時まで

大切な人、もの、場所。楽しい!と思う時や心が安らぐ瞬間。大槌に住むみなさまの「わたしの宝物」を写した写真展「大槌宝箱」を開催します。ご近所のあの方も出品してるかも?その場で写真を写して写真展に参加できる写真撮影体験もあります!ぜひご参加ください!

イベントにも参加してね!

白澤獅子踊り、民謡

3日(日)14時~
民謡と白澤獅子踊り保存会による獅子踊りの披露!
後援 大槌町、おらが大槌夢広場、吉里吉里国東日本大震災雇用・教育・健康支援機構 協力 白澤獅子踊り保存会、オガサワラ写真、日本ジャーナリスト教育センター 協賛 NTT東日本岩手支店

写真撮影体験

随時 その場で写真を撮影、印刷、掲示し写真展に参加できます!

主催 大槌みらい新聞
☎ 0193-55-5908

町職員

不足深刻、長時間残業も

大震災で多くの職員を失った大槌町役場。その応援のため、兵庫から派遣されていた男性職員が正月、宿舎で自ら命を絶った。男性職員は復興事業の「最前線」に配属され、残業も長時間に及んだ。自殺の原因は調査中とされているが、その背景に深刻な職員不足があったことは否めない。今年は復興事業が目に見える形で進むスケジュールとなっているが、十分な職員体制を確立できなければ、ずれ込む懸念もある。町は「心の健康」(メンタルヘルス)対策に万全を期す姿勢を示しながら、復興事業の頼みの綱となっている応援職員の確保に懸命だ。

応援派遣確保に懸命

検証 復興への道 ⑥

自殺職員 残業80時間超

昨年10月から半年の任期中で町都市整備課区画整



復興事業の本格化や職員不足で長時間残業が懸念される大槌町役場

理班に単身派遣されていた兵庫県宝塚市の技術系男性職員(45)が1月3日朝、宿舎として使っていた宮古市の仮設住宅で自殺した。室内には「皆様ありがとうございました。ございました。大槌はすばらしい町です。大槌がんばれ!!」と書き残されていたという。

男性職員は震災発生直後、宝塚市水道局の応急給水隊として大槌を支援した。今回は、土地区画整理事業などを担当し住民と直接向き合う部署に配属。夜や週末、地域ごとに開いている「復興まちづくり懇談会」に参加し、住民から住宅再建の意向を聞き取る調査も担当していた。

町によると、男性職員の残業は最初の10月こそ34時間にとどまっていたが、11月は96時間に急増し、12月も84時間に上った。中央労働災害防止協会メンタルヘルス推進センターの冊子「過重労働による健康障害を防ぐために」によると、月80時間を超える残業が連続すると健康障害のリスクが高まり、面接指導が必要としている。男性職員への面談は1・2月に



臨時議会の開会前、自殺した職員に1分間の黙とうを捧げる町幹部や議員ら。1月11日、町役場議場

予定されていたという。

また、町は応援職員宿舎を町内になかなか確保できず、男性職員は宮古市津軽石地区の仮設住宅から車で片道約45分の通勤を強いられていた。町内に応援職員向けアパート40戸分が完工し入居可能となったのは自殺翌日の4日からで、男性職員も転居する予定だったという。

マンパワー不足 改善策示せず

昨年の町議会9月定例会の一般質問で阿部俊作議員は「職員は自ら被災しながらも懸命に町民の保護のため、復興のため、不眠不休で働いている。特に仮設から通勤する職員の心身の疲労は想像を絶する」と指摘。「過重長時間労働が懸念される。町民の不満の矢面に立たされ職員が心配。メンタルケアは大丈夫か」と警鐘を発し

た。平野公三総務部長は「事務量が膨大かつ長期にわたり、長時間労働になっている。マンパワー不足が要因と考えている」などと答弁。メンタルケアをめぐる「長時間労働が健康を害し、うつ病などの精神疾患などの原因となる。派遣職員は、異なる職場環境や被災地という生活環境の中でストレスが蓄積する」などとしたが、総合的な改善策は示せなかった。

残業を減らすのは難しい

碓川町長は1月10日の年頭会見で「職員自殺は痛恨の極み。悲しい出来事に向き合い再発防止に万全を期したい」と、全職員を対象に心の健康対策を抜本的に見直す意向を表明。1月21日の町長会見では取り組みの柱として①労務管理の検討会設置②相談コーナー開設や個別面談、管理職セミナー開催③専門医を加えた職員衛生委員会での「心の健康づくり実施計画」(仮称)策定――を早々と発表した。

一方、4月からの必要応援職員121人に対し、1月28日現在で確保できたのは93人とどまっていることを明らかにし「残業を減らすのは難しい」と苦渋の表情。「住民にお願いしたいこととして、アンケート調査に速やかに対応していたことも残業を減らすことになる」と付け加えた。

全国からの応援職員 4割占める

大槌町は震災前、行政改革の一環として職員を2005年度171人から10年度137人に、5年で2割近くも削減。その翌年、大震災が襲い、当時136人のうち、町長や課長級7人を含め40人が犠牲となり、行政機能が一時まひ状態に陥った。このため、町は右手県などを通じて全国の自治体に応援派遣を要請してきた。

応援職員数は今年1月4日現在、岩手県内の市町村で最多の73人となっている。また同月28日現在の町職員は地元採用132人、全国の自治体や企業などからの応援派遣78人の計210人で、応援派遣が37・1%を占めている。

復興事業の本格化に伴い、新年度からの必要職員を地元職員143人、応援派遣121人の計264人と見積もった。応援派遣の割合を45・8%に高める人員計画となっているが、全国的に公務員削減が進む中で、応援職員の確保は容易でない。

応援職員 今春に二斉交代

加えて、自治体からの応援職員の任期はほぼ3カ月、6カ月、1年単位。来月末に多くの応援職員が任期切れとなることから、応援職員の顔ぶれが大きく変わり、引き継ぎなどで復興事業が一時足踏みする可能性もある。



応援職員向け宿舎として町が全40戸を借り上げた民間アパート。その入居開始可能日の前日、応援職員が宮古市の仮設住宅で自殺。大槌町大槌第10地割

「うまくいっている話も振り出しに戻るのではないかな。昨年の町議会12月定例会で、この問題に質疑が集中。佐々木彰副町長は「できれば(同じ職員を)継続して派遣していただき」と派遣元(の自治体)にもお願いに行っているが、厳しい事情があるようので、せめて引き継ぎでの配慮をお願いしている。信頼関係を築いてきた派遣職員がまた顔が変わる。住民の不安もあるだろうが、派遣元の事情もある」と理解を求めた。

碓川町長は年頭会見で復興事業本格化に向け「職員、土地、業者の確保が課題になる」と強調した。しかし、過重労働の解消を目的意識的に図らない限り、特に応援職員の確保は今後難しくなるだろう。職員不足と過重労働の悪循環に陥る危険もある。

(松本裕樹)